ｅ－ＴＡＸ電子納税
インストールガイド

Ⅰ インストール前に確認すべき事項

ｅ－ＴＡＸ電子納税をパソコンにインストールする前に、以下１～４を確認してください。

１．ｅ－ＴＡＸ電子納税の動作環境

ｅ－ＴＡＸ電子納税をご利用いただくためのパソコン環境は下記の通りです。

ＯＳ （注1、2）	Windows 11 Enterprise / Pro / Home
ＣＰＵ(注3)	２ＧＨｚ以上
メモリ	４ＧＢ以上
ディスプレイ（解像度） （注4）	１０２４×７６８以上 Ｈｉｇｈ Ｃｏｌｏｒ（１６ビット）以上
ハードディスクの 空容量	５ＧＢ以上
DVD－ROMドライブ(注5)	不要
ＵＳＢポート	ＩＣカードリーダライタ接続用
インターネット環境(注6)	ブロードバンド環境（推奨）
ブラウザ(注7)	Microsoft Edge Google Chrome

(注1) インターネット環境での利用となるため、Windows Update の「重要な更新と Service Pack」が０件となっていることを推奨します。

(注2) 日本語版 Windows OSのみ対応しています。
英語版のMulti User Interface による日本語環境は対象外です。

(注3) ARMプロセッサでは動作しません。

(注4) 高解像度ディスプレイについては、以下をご参考に文字サイズを変更してください。
①解像度3200×1800の場合は、文字サイズ特大(200%)以下としてください。超特大(250%)では、画面が隠れる場合があります。
②解像度2560×1440の場合は、文字サイズ大(150%)以下としてください。超特大(250%)、特大(200%)では、画面が隠れる場合があります。

(注5) プログラムの新規登録はＩＳＯイメージファイルでの登録、更新登録はプログラムダウンロードでの登録となるため、ＤＶＤ－ＲＯＭドライブは不要です。

(注6) 「地方税eLTAX仕様」により、プロキシサーバーの認証方式は、「BASIC認証」「Digest認証」「Negotiate(NTLM)認証」となります。

(注7) 推奨環境外のブラウザでもシステムのインストールは可能ですが、その場合の動作は保証できません。

(注8) 仮想化環境でのシステムの動作は保証いたしません。
また、仮想化環境に起因する問題は、サポート対象外とさせていただきます。

２．ｅ－ＴＡＸ電子納税の動作に必要なソフトウェア

ｅ－ＴＡＸ電子納税の動作に必要なソフトウェア等は下記の通りです。

なお、「インストール」欄に「○」が付いているソフトウェアは、「ｅ－ＴＡＸ電子納税」のインストール時にパソコンに登録されます。

製　品　名	必須	ｲﾝｽﾄｰﾙ	備　考
.NET Framework 3.5 SP1、4.6.1 .NET Framework 3.5 SP1 Japanese Language Pack	○	○	
Microsoft SQL Server 2022 Express Edition	○	○	下記「※」参照
Adobe Reader	△		システム利用マニュアル(PDF)の閲覧に必要です。

※旧バージョンの「Microsoft SQL Server 2014 Express Edition」（以下、「MSEE 2014」）が登録済みの場合、「Microsoft SQL Server 2022 Express Edition」（以下、「MSEE 2022」）はｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール時に登録されません。

「MSEE 2014」を登録済みのパソコンに「MSEE 2022」を登録する場合は、ｅ－ＴＡＸ電子納税のＩＳＯイメージファイルからインストールメニューを起動し、画面上の「ツール」から「MSEE 2022」を登録してください。

なお、ｅ－ＴＡＸ電子納税をASP1000R又はｅ－ＴＡＸグループ通算と同じパソコンで利用している場合は、ASP1000R又はｅ－ＴＡＸグループ通算のＷｅｂメニューの「システム設定」－「環境設定ツール」の画面上の「ツール」からも「MSEE 2022」を登録できます。

３．ネットワーク環境設定

「ｅ－ＴＡＸ電子納税」をご利用いただくためには、ネットワーク機器およびウイルス対策等のソフトウェアが「ｅ－ＴＡＸ電子納税」の通信を許可する設定となっている必要があります。

つきましては、貴社のシステム担当者の方に、以下の設定を行っていただくようご依頼ください。

(1) 通信を許可する宛先とポート

宛　先	ＵＲＬ	ポート
国税電子申告・納税システム（e-Tax）	https://uketsuke.e-tax.nta.go.jp	443
地方税ポータルシステム（eLTAX）	https://www.portal.eltax.lta.go.jp	443
eLTAX 納付ポータルシステム	https://portal.payment.eltax.lta.go.jp	443
株式会社ＴＫＣ	https://etaxlicense.tkc.co.jp	443
	https://cts.tkc.co.jp	443
	http://ctsdwnld.tkc.co.jp	80
	https://ctsdwnld.tkc.co.jp	443
	https://www.prft.tkc.co.jp/	443
	https://go.tkc.jp	443
	https://www.tkc.jp	443
	https://cbc.tkc.jp	443
	https://tkcjpckbfym.amie-bot.com	443
	https://contact-escalation.tkc.co.jp	443
株式会社ＴＫＣ （プログラムインストール ／プログラムダウンロード ／ＩＳＯダウンロード）	http://crl.*.amazontrust.com	80
	http://ocsp.*.amazontrust.com	80
	http://*.microsoft.com	80
	https://*.microsoft.com	443
	http://*.windows.com	80
	https://*.windows.com	443
	http://*.windowsupdate.com	80
	https://*.windowsupdate.com	443
	http://download.microsoft.com	80
	https://download.microsoft.com	443

※「521 通算親法人による法人税・地方法人税の一括ダイレクト納付」を利用する場合は、e-TaxHPの下記URLに記載の「認証」や「e-Taxソフト(WEB版)」の接続先の許可も必要となります。
(https://www.e-tax.nta.go.jp/toiawase/qa/yokuaru09/50.htm)

※「第六世代税理士用電子証明書」で電子署名する場合は、次のＵＲＬも許可してください。

宛　先	ＵＲＬ	ポート
リモート署名サーバー	https://jfcpta-rssp.hsm.toshiba.co.jp/	443
第六世代管理ツール	https://nzs6.e-probatio.com	443
第六世代管理ツール （可変文言データ取得、CP/CPS 参照用）	https://www.e-probatio.com	443

日本税理士会連合会 HP(https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/auth/psa6th/#a)では、TLS クライアント認証の例外設定（特にプロキシサーバを使用している環境下）について、TLS クライアント認証を要求するＵＲＬとして以下の接続先を許可するよう設定してください、と案内されています。

宛　先	ＵＲＬ
第六世代管理ツール	https://nzs6.e-probatio.com/

※「商業登記リモート署名方式」で電子署名する場合は、許可が必要なＵＲＬを法務省HP(https://www.moj.go.jp/MINJI/minji06_00236.html)でご確認ください。

(2) 通信を許可するプログラム

ファイル名	ファイルの場所
EtsMain.exe	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI
EtsPKey.exe	
DownloadTkcUpdate.exe	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI¥CTS
EtsAppLauncher.exe	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI¥CTS
	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI¥CTS¥Temp
TkcUpdate.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKC¥Update
BasicSetup.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKC¥Update¥***** ※フォルダ名の*****部分は、システム登録状況により値が異なります。「1.3.45.129」のように数値と「.」の組み合わせとなりますので、Updateフォルダ内を確認してください。
TkcUpdate.exe	
TkcUpdateOdm.exe	
DOTNETVer4DL.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥ProgramData¥TKC¥CDROOT¥PROGRAMS¥WIN¥FW4
DOTNETVer2DL.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥ProgramData¥TKC¥CDROOT¥PROGRAMS¥WIN¥FW35SP
instMS14DL.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥ProgramData¥TKC¥CDROOT¥PROGRAMS¥WIN¥MSEE2014
instMS22DL.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥ProgramData¥TKC¥CDROOT¥PROGRAMS¥WIN¥MSEE2022
SQL2022-SSEI-Expr.exe	
OEClient.exe	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI¥OEClient
SystemUsageSender.exe	(ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKCDOTNET¥ETNOZEI¥CBC
	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Users¥<ﾕｰｻﾞｰ名>¥AppData¥Local¥Temp¥TkcSystemUsage2nd ※<ﾕｰｻﾞｰ名>はコントロールパネル＞システム＞システムの詳細設定で環境変数Tempをご確認ください。
TkcChatBotLauncher.exe	(OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ):¥Program Files (x86)¥TKC¥Shared Files¥TkcChatBotLauncher

※「ｼｽﾃﾑﾄﾞﾗｲﾌﾞ」は、e-TAX電子納税をインストールしたドライブです。
※「OSﾄﾞﾗｲﾌﾞ」は、ＯＳが登録されているドライブです。

(3) 設定が必要なネットワーク機器およびソフトウェア

①ＵＴＭ(統合脅威管理)製品・機器
②ファイアウォール装置、ファイアウォールソフト
③プロキシサーバー
④ウイルス対策ソフト、セキュリティ対策ソフト等

（ご注意）

「ｅ－ＴＡＸ電子納税」をパソコンに登録した際に、コントロールパネルーインターネットオプションの「信頼済みサイト」に、国税電子申告・納税システム(e-Tax)のＵＲＬ、および地方税ポータルシステム(eLTAX)のＵＲＬが登録されます。

４．プロキシサーバーの認証方式に関する制約

地方税ｅＬＴＡＸ仕様では、プロキシサーバーの認証方式に関する制約として、対応している認証方式は「BASIC 認証」「Digest 認証」「Negotiate(NTLM)認証」とされています。

ｅ－ＴＡＸ電子納税をご利用のパソコンからインターネットに接続する経路に認証が必要なプロキシサーバーが設置されている場合は、その認証方式が「BASIC 認証」「Digest 認証」「Negotiate(NTLM)認証」であるかどうかを、貴社のシステム担当者様にご確認ください。

Ⅱ システムのインストール

１．ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール時の注意点

(1) インストール時の注意点

①ｅ－ＴＡＸ電子納税をインストールする際に、貴社のネットワーク環境等の確認を必要とする場合があります。貴社のシステム担当者様立ち会いのもとで、インストール作業を行ってください。

②ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール先ドライブが、圧縮されている場合、または暗号化されている場合には、エラーになり正しくインストールできません。

(2) インストール作業時にパソコンにログインするユーザ権限

ｅ－ＴＡＸ電子納税をインストールする際は、 インストールするパソコンに、
必ず管理者（Administrator）権限を持つユーザでログインしてください。

(3) ＯＳのサービスパック

インストールするパソコンのＯＳのサービスパックが最新、重要な更新すべて適用されているかをご確認ください。

なお、サービスパックを適用する場合は、貴社のシステム担当者様に、サービスパック適用の可否をご確認のうえ、作業を行ってください。

(4) インストール時間

ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール時間は、パソコンのスペックにより多少の違いはありますが、おおむね１５分～３０分程度かかります。

これは、プログラムそのもの以外に、上記の「.NET Framework 3.5 SP1、4.6.1」や「Microsoft SQL Server 2022 Express Edition」等のソフトウェアと、それに加えて電子申告を行う際に必要となる定義ファイルを、パソコンにインストールしているためです。

(5) インストール作業に必要なもの

①当該手順書

②ｅ－ＴＡＸ電子納税のプロダクトキー

③ｅ－ＴＡＸ電子納税のＩＳＯイメージファイル（EtaxNozeiXXXX.iso）

（注）

１．ｅ－ＴＡＸ電子納税のプロダクトキーは、ASP1000R／eConsoliTax／ｅ－ＴＡＸグループ通算の契約会社に通知されます。

２．ＩＳＯイメージファイルは、ＩＳＯイメージファイルの申込みサイトからダウンロードできます。

３．ファイル名：「EtaxNozeiXXXX」の「XXXX」部分は、インストールするシステム版数によって異なります。

４．お使いのパソコンで「ﾌｧｲﾙ名拡張子」を表示しない設定の場合、「.zip」「.iso」部分は表示されません。

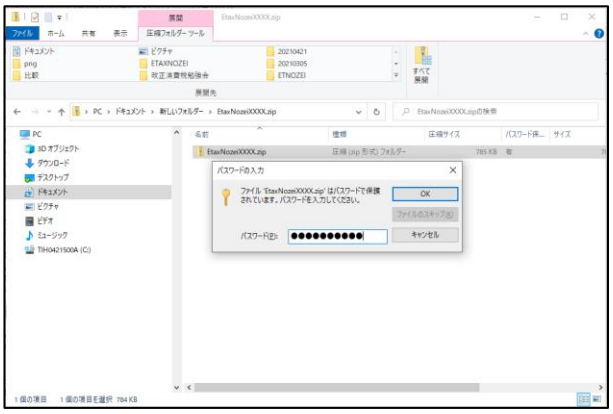
(6) Windows 11 の「高速スタートアップ」の無効設定

Windows 11 パソコンをご利用の場合には、ＴＫＣシステムを正しくインストールするため、プログラムインストール時に、Windows 11 の「高速スタートアップ」設定を無効にしています。

そのため、「高速スタートアップ」設定を有効にする場合は、巻末資料『１．Windows 11 の「高速スタートアップ」設定手順』で設定してください。

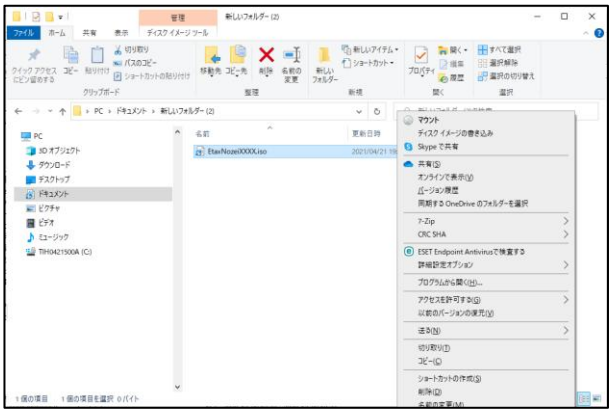
２．ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール

(1) ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストーラの起動



①ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙダウンロードサイトから取得した ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙ(.zip)を解凍して、「EtaxNozeiXXXX.iso」を取り出し、パソコンのﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟやﾄﾞｷｭﾒﾝﾄﾌｫﾙﾀﾞ等に保存します。
取り出しの際、パスワード画面が表示されますので、パスワードを入力し、[ＯＫ]をクリックします。

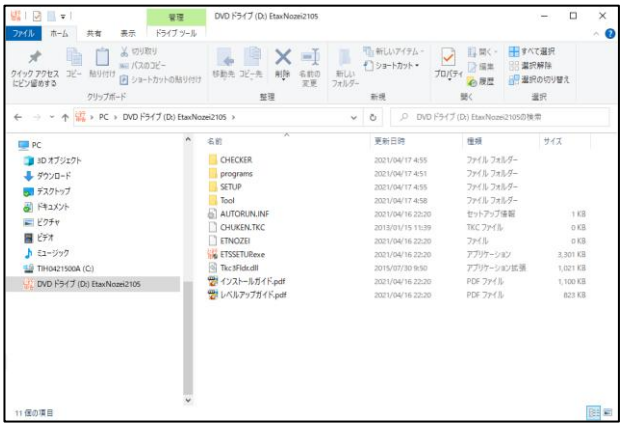
※パスワードは、お申込み時に入力いただいたメールアドレス宛てに送付しています。
※EtaxNozeiXXXX.iso の「XXXX」部分は、インストールするシステム版数によって異なります。
※お使いのパソコンで「ﾌｧｲﾙ名拡張子」を表示しない設定の場合、「.zip」「.iso」部分は表示されません。



②ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙ(EtaxNozeiXXXX.iso)を右クリックし、「マウント」を選択します。

※右クリックで「マウント」が表示されない場合は、ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙの関連付けを「エクスプローラー」に変更してください。
1) ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙを右クリックし「プロパティ」画面を表示します。
2)「全般」タブの「プログラム」の「変更」ボタンをクリックします。
3) ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙを開くプログラムの確認画面が表示されるので「エクスプローラー」を選択します。
関連付けが OS 標準に戻ります。
4) プロパティ画面を OK で閉じ、ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙを右クリックして「マウント」のﾒﾆｭｰが表示されることを確認してください。

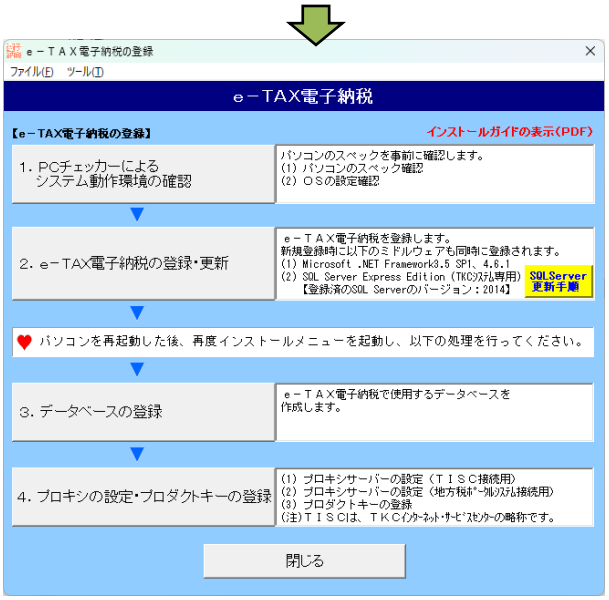
※「ファイルをマウントするためのアクセス許可がありません。」等、マウントできない旨のメッセージが表示される場合は、ドライブの割り当てをできないように制御されていないかを貴社のシステム担当者にご確認ください。



③マウントすると左の画像のように、エクスプローラー上に仮想ドライブが割り当てられます。

④仮想ドライブに格納されている下記のプログラムを実行（ダブルクリック）してください。

ETSSETUP.exe



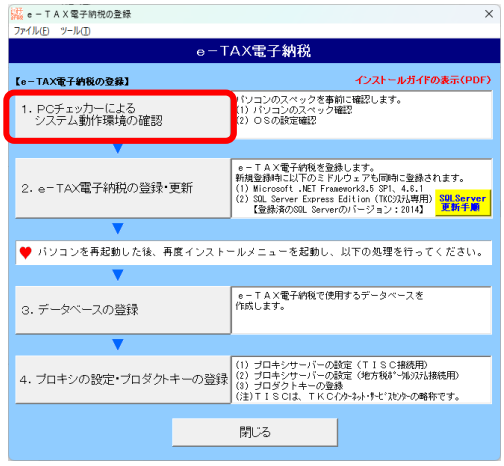
⑤左の画面が表示されます。

(2) 「ＰＣチェッカー」によるパソコンの動作環境の確認

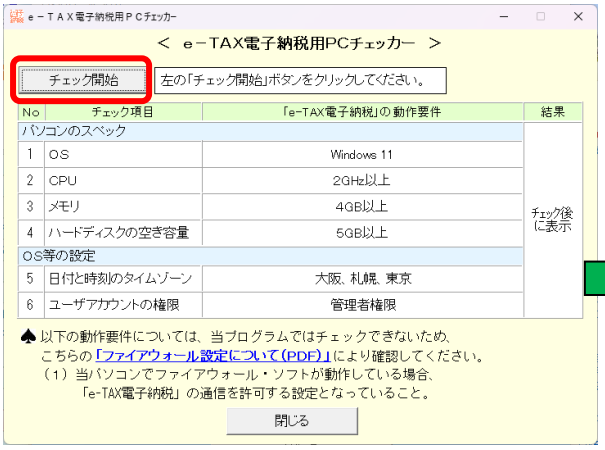
ご利用パソコンがシステムの動作要件を満たしているか調査します。この調査用プログラムを「ＰＣチェッカー」と呼びます。

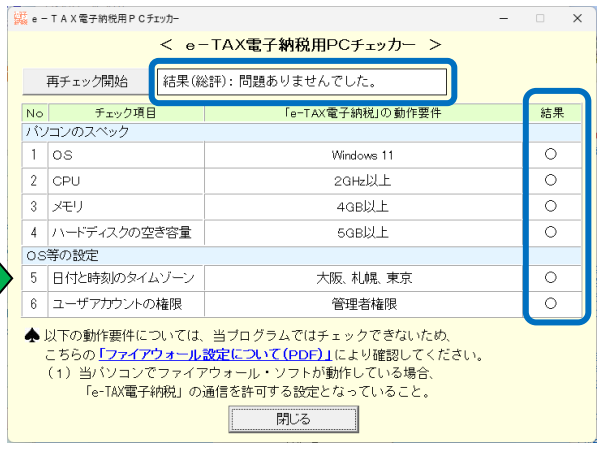
＜ＰＣチェッカーで確認できる項目＞

ＰＣのスペック	
1) ＯＳの種類	動作可能なＯＳか確認します。
2) ＣＰＵ	推奨値以上か確認します。
3) メモリ容量	推奨値以上か確認します。
4) ハードディスクの容量	推奨値以上か確認します。
ＯＳの設定	
1) 日付と時刻のプロパティ(タイムゾーンの設定)	タイムゾーンの設定を確認します。
2) ユーザアカウントの権限	ユーザが Administrator か確認します。



①「1. ＰＣチェッカーによるシステム動作環境の確認」をクリックし、「ＰＣチェッカー」を起動します。





②画面左上の[チェック開始]ボタンをクリックしてください。
チェックが終了すると結果が表示されます。

③「結果」欄にすべて「○」がついた場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

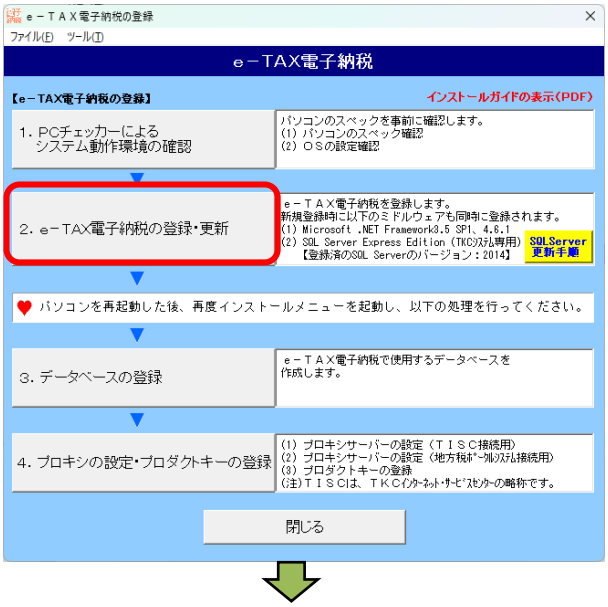
④「結果」欄に「要確認」と表示された場合は、[確認方法] ボタンをクリックし、確認方法を確認し、パソコンの設定を変更してください。インターネット･エクスプローラの設定変更が必要な場合は、貴社のシステム担当者様に設定変更の可否をご確認ください。

⑤貴社のファイアウォールの設定については、「ＰＣチェッカー」で確認できません。
３頁の「ネットワーク環境設定」を確認の上、貴社のシステム担当者に、設定をご依頼ください。

(3) ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録・更新

「ＰＣチェッカー」によるパソコンの動作環境の確認が完了後、パソコンにｅ－ＴＡＸ電子納税をインストールします。

なお、ｅ－ＴＡＸ電子納税のインストール時に、システムの稼働に必要なソフトウェアもインストールされます。(「ｅ－ＴＡＸ電子納税の動作に必要なソフトウェア」（３頁）を参照ください。)



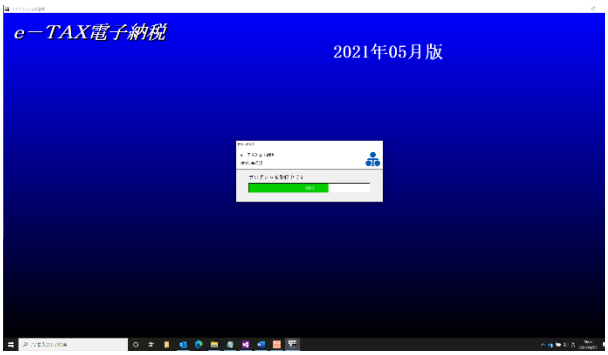
①[２．ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録・更新]ボタンをクリックします。

②インストールドライブを選択し、[次へ(N)]ボタンをクリックします。

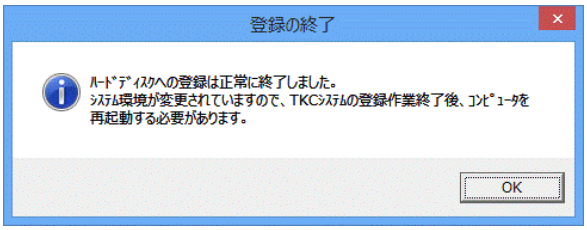
③「SQL Server 2022 Express Edition(ＴＫＣシステム専用)」のインストールが始まります。

※ご注意

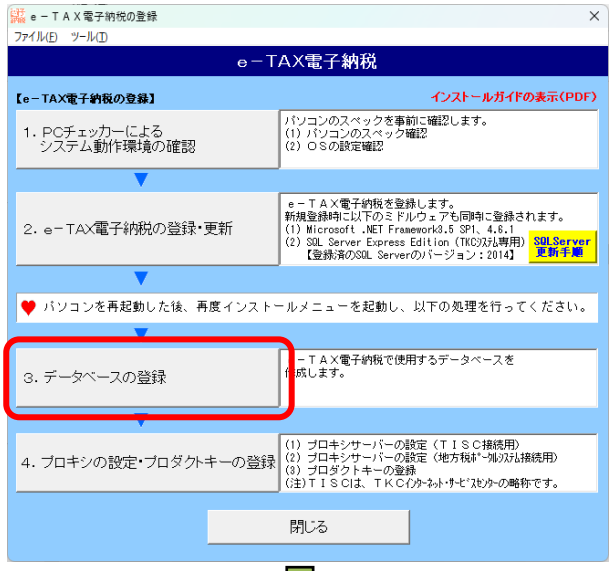
ファイアウォールソフトを導入されている場合、「SQL Server 2022 Express Edition」のインストールの途中で、ポップアップが表示される場合があります。ポップアップが表示された場合は、お使いのファイアウォールソフトの説明書等をご確認いただき、通信を許可してください。



④次に、ファイルのコピー処理が始まります。※当該処理に約 10 分～20 分程度かかります。



⑤ファイルのコピー処理が完了すると、左のメッセージが表示されます。メッセージに従い、パソコンを再起動してください。

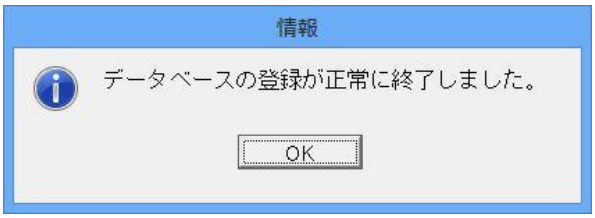


⑥パソコンを再起動後、再度、ISO ｲﾒｰｼﾞﾌｧｲﾙ(EtaxNozeiXXXX.iso)をマウントし下記のプログラムを実行（ダブルクリック）してください。

ETSSETUP.exe

⑦[３．データベースの登録]をクリックします。

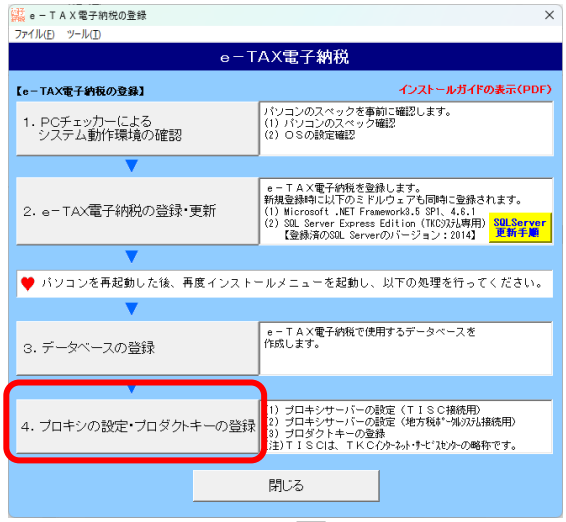
⑧データベース登録処理がスタートします。



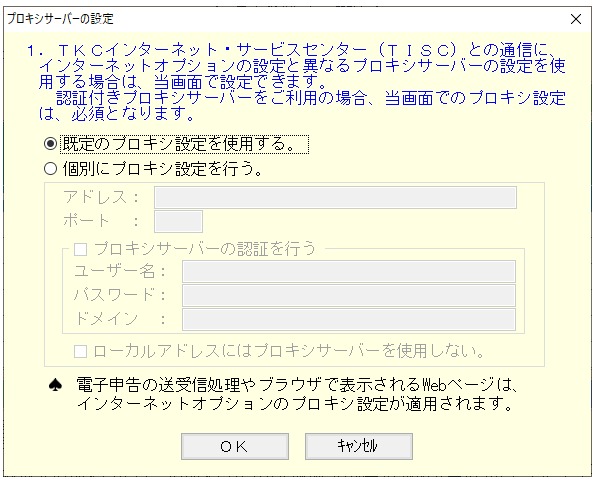
⑨データベースの登録が正常終了すると、左のメッセージが表示されます。[ＯＫ]をクリックします。

(4) プロキシの設定・プロダクトキーの登録

ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録が完了後、「プロキシの設定・プロダクトキーの登録」を行います。



①[４．プロキシの設定・プロダクトキーの登録]ボタンをクリックします。

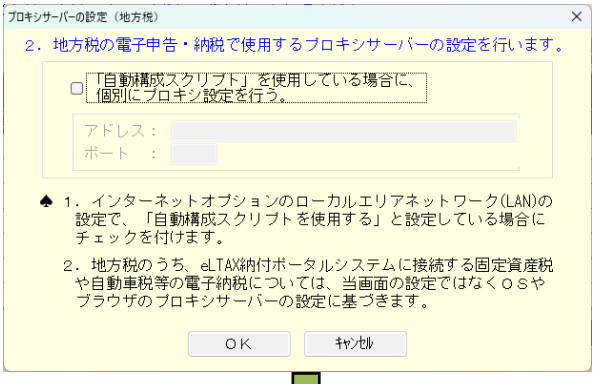


②プロキシサーバーの設定（ＴＩＳＣ接続用）

インターネットオプションの設定と異なるプロキシサーバーの設定を使用する場合は、当画面で設定します。

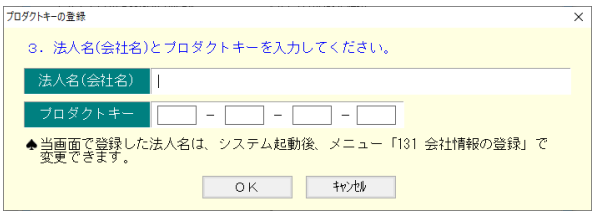
なお、認証付きプロキシサーバーをご利用の場合、当画面でのプロキシ設定は必須となります。

※プロキシサーバーの設定情報については、貴社のシステム担当者様にご確認ください。



③ﾌﾟﾛｷｼｻｰﾊﾞｰ設定（地方税ﾎﾟｰﾀﾙｼｽﾃﾑ接続用）を行います。（任意）

※プロキシサーバーの設定情報については、貴社のシステム担当者様にご確認ください。



④ｅ－ＴＡＸ電子納税のプロダクトキーを登録します。

以　上

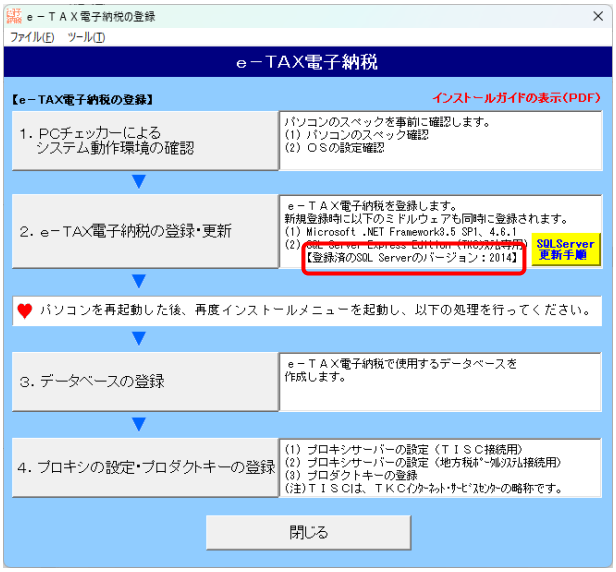
Ⅲ 巻末資料

１．Microsoft SQL Server 2022 Express Edition を登録する手順（2014 から 2022 への更新）

ｅ－ＴＡＸ電子納税をパソコンに新規登録する場合（Microsoft SQL Server Express Edition（以下、MSEE）が未登録の場合）は、ｅ－ＴＡＸ電子納税のプログラムの登録と併せて MSEE が登録されます。

ただし、既に旧バージョンの「MSEE 2014」がパソコンに登録されている場合、「MSEE 2022」は自動的に登録されませんので、下記(2)の手順で「MSEE 2022」を登録してください。

(1) 登録済のSQL Serverのバージョンの確認



① 「２．ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録・更新」の横に表示されている「登録済SQL Serverのバージョン」を確認します。

＜「2022」と表示されている場合 ＞

「MSEE 2022」がパソコンに登録済みです。

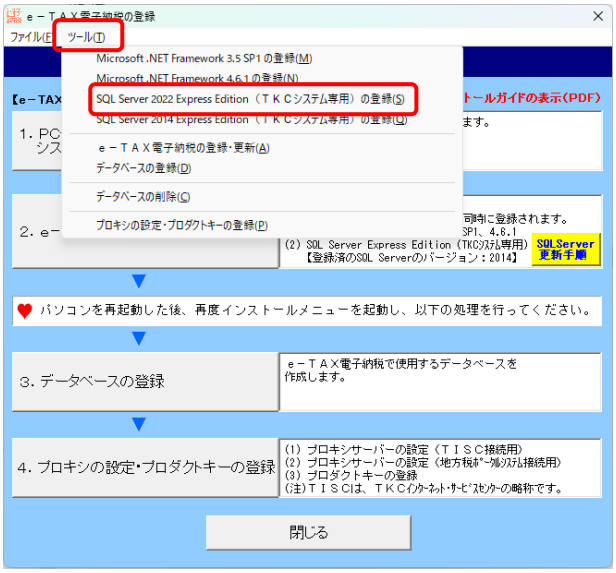
＜「2014」と表示されている場合 ＞

下記(2)の手順で「MSEE 2022」を登録してください。

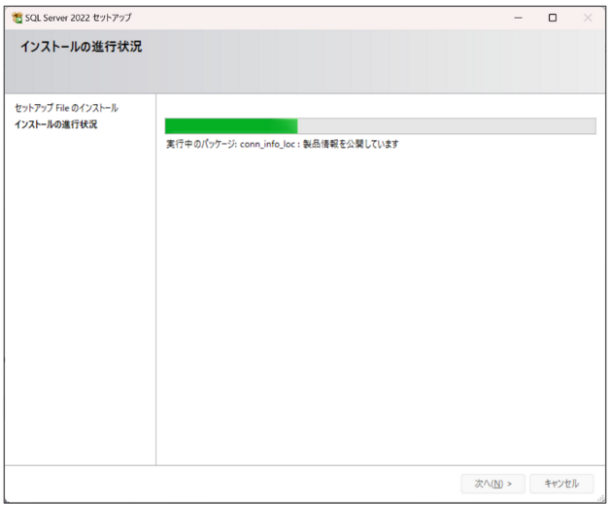
＜ 空欄の場合 ＞

「２．ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録・更新」でｅ－ＴＡＸ電子納税のプログラムと併せて「MSEE 2022」を登録してください。

(2) 「MSEE 2022」を登録する手順



① 「ツール(T)」－「SQL Server 2022 Express Edition（ＴＫＣシステム専用）の登録」をクリックします。



②「MSEE 2022」の登録が行われます。

③インストールが終了すると左のメッセージが表示されます。

インストール後は、パソコンを再起動してください。

なお、ｅ－ＴＡＸ電子納税は[2024 年 08 月版]から「MSEE 2022」に対応しています。そのため、[2024 年 01 月版]以前の版数をご利用の場合は、ｅ－ＴＡＸ電子納税の更新が必要です。

上記のインストールメニューの「２．ｅ－ＴＡＸ電子納税の登録・更新」で更新するか、システム起動後のプログラムダウンロード機能で、最新版のプログラムに更新してください。

２．Windows 11 の「高速スタートアップ」設定手順

ＴＫＣシステムのインストール時には、正しくインストールされるように、Windows 11 の「高速スタートアップ」設定を無効にしています。

Windows 11 の「高速スタートアップ」設定を有効にする場合は、以下の手順で設定してください。

なお、ＴＫＣシステムのインストールやレベルアップを行うと、毎回「高速スタートアップ」設定が無効になります。再度有効にする場合には、パソコンを再起動してから設定してください。

(1) 「コントロール パネル」で「ハードウェアとサウンド」をクリックします。

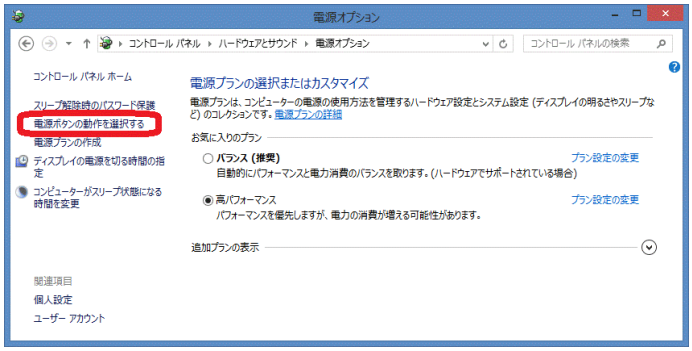
※表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「電源オプション」をクリックし、下記手順(3)に進みます。

＜「コントロール パネル」の表示方法＞

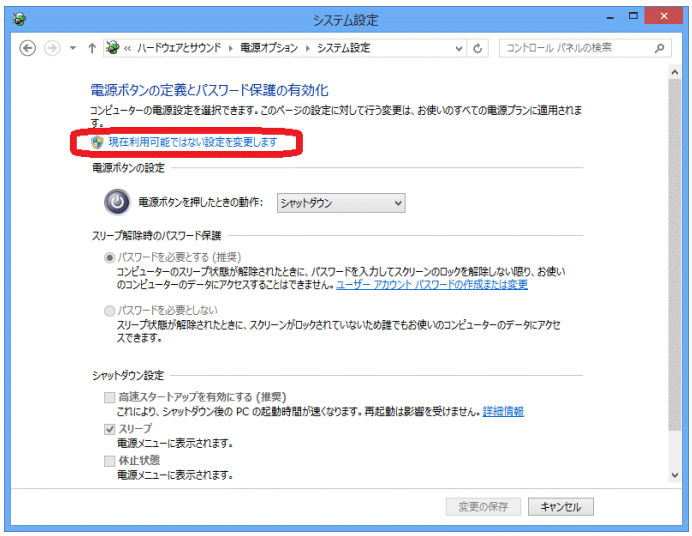
1)「スタート」メニューから、右上の「すべてのアプリ」クリックします。

2)「Windows ツール」をクリックし、「コントロールパネル」を選択します。

(2) 「電源オプション」をクリックします。

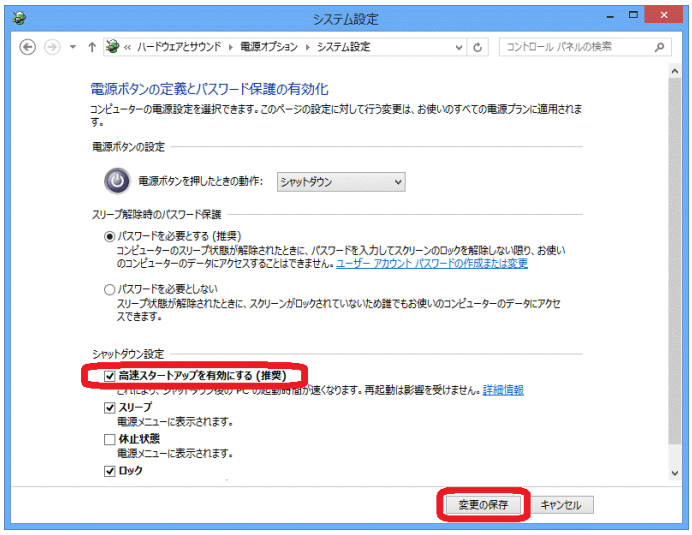


(3) 画面左側の「電源ボタンの動作を選択する」(ＯＳによっては「電源ボタンの動作の選択」) をクリックします。



(4) 画面上部の「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。

(「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は「はい(Y)」をクリックします。)



(5) 「高速スタートアップを有効にする(推奨)」をクリックしてチェックを入れます。

(6) 「変更の保存」をクリックします。

(7) 画面右上の「×」をクリックして閉じます。

以　上